

講義名	租税論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	三原 裕子		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 4時限	授業形態	
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメント / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング / 2014年度 サービス産業学部		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>我々が暮らす日本では様々な問題を抱えています。その1つに財政上の問題があります。少子高齢化が進む中、歳入と歳出のバランスが崩れ、それによる社会保障制度の維持可能性や公債発行残高の年々の上昇などが喫緊の課題としてあげることができます。これら財政が抱える諸問題を解決するためには、税の引上げは避けることが出来ません。しかしながら、財政問題を解決するための租税の引上げは我々の暮らしに影響を及ぼすこととなります。そこで、本講義では租税の性質や効果、影響についての理解を深めることを目的にします。</p>

到達目標
<p>経済学の基礎的な知識を身に付け、理論的に物事が判断できるための力を養う。税制度が抱える諸問題について分析、評価できるようになるための知識を身につける。</p>

提出課題
<p>その回に関連のある小テストや宿題を課すことがあります。</p>

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<p>小テストや宿題は次回の講義始めに解説を行います。</p>

評価の基準
<p>小テスト30%、学期末試験70%により成績を評価し60点以上を合格とします。</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則禁止します。ただし、やむを得ない事情等により、事前に申し出た場合に限りほかの受講生の妨げにならない範囲で許可します。</p>

教科書
<p>.使用しない。</p>

プリント資料及び参考文献
<p>講義中にレジュメを配布します。 主な参考文献 ・林正寿『租税論』有斐閣、2008 その他参考文献については授業中に適宜紹介します。</p>

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. 租税論とは 2. 経済が直面する3つの課題 3. 財政の資源配分機能 4. 日本の租税構造 5. 日本の租税制度の歴史 6. 応益原則と応能原則 7. 応益原則による租税負担の配分 8. 応能原則による租税負担の配分 9. 中立性の原則と社会余剰 10. 消費税と超過負担(1) 11. 消費税と超過負担(2) 12. ラムゼイのルール 13. 租税の転嫁と帰着 14. 所得税と消費税の特徴 15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<ol style="list-style-type: none"> 1. 我々に身近な租税について調べてみる（45分程度） 2. 日本経済が抱える諸問題について調べてみる（60分程度） 3. 我々の社会に財政がどのように関わっているかを調べてみる（1時間程度） 4. 日本の租税の仕組みについて調べてみる（1時間程度） 5. 配布した資料を読み、わからない箇所にチェックをしておく（1時間程度） 6. 配布した資料を読み、わからない箇所にチェックをしておく（1時間程度） 7. 配布した資料を読み、わからない箇所にチェックをしておく（1時間程度） 8. 第7回目の内容を復習しておく（45分程度） 9. 余剰について復習をしておく（1時間程度） 10. 第9回目の内容を復習しておく（1時間程度）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
<p>受講生の理解度に応じて、授業の内容・進め具合を変更する場合があります。</p>